「教育」で持続可能な社会構築

ESD（持続可能な開発のための教育）

「国連ESDの10年」総括年にあたって

環境省中部環境パートナーシップオフィスチーフプロデューサー
新海　洋子

「国連ESDの10年」の最終年である2014年11月に、愛知・名古屋にてESDユネスコ世界会議（以下、世界会議）が開催される。世界会議では10年間の成果と課題、そして今後の展開についての議論が交わされる。愛知・名古屋では、世界会議開催地に決定後、多様な主体のESDに対するモチベーションがより高まり、それぞれ特色ある取り組みが展開されている。

愛知県は13年、県内の自治体職員を対象としたESDセミナーを行った。メニューの中でも、特にNPOと協働で実施した「環境」「防災」「教育」「多文化共生」「まちづくり」など各分野でのESD施策を創造するグループワーク（計5回）は、先進事例をひもとき、ESDが重要視している視点や手法の習得、ESD施策づくりのための素材の抽出など充実した内容であった。セミナーの内容と県内市町村および県のESD関連事業を取りまとめた「自治体職員のためのESDハンドブック」も発刊した。

さらに、県内の「ユネスコスクール」の登録50校を目標とし、高等教育機関や教育委員会が主導し、その推進を図ってきた。申請中を併せると145校（14年6月30日現在）と既に目標を達成し、ESD授業づくりや教員のスキルアップ研修などが各地域で行われている。また、ユネスコスクールの登録はしていなくても、学校経営方針にESDを掲げ実践をしている学校や、ESD研究指定校の発表会や研修、授業視察など、教員が学びあう機会をつくっている教育委員会もある。

企業は経済団体などがESDの勉強会や研究会を実施し、自社の事業活動、社員教育、CSR活動をESDの視点で見直す、といった取り組みなどを行っている。資源の有限性やさまざまな格差が引き起こす社会不安を目の当たりにした状況下において、「循環」「持続性」を可能にする技術革新、企業活動に関わる多様なステークホルダーの生活向上に資する経営は、企業にとって必須の課題である。そして、そのような「持続可能な生産・流通・消費」を可能にする人材、サステナブルイノベーションを起こす企業人の育成は、「モノづくり」産業県愛知が率先して取り組み、産官学民による人材育成モデルプログラムの実証、具現化が求められている。

また、ユニークな取り組みとして、愛知県を中心に公立私立を問わず、ESD活動をしている高校生が集まり、活動を紹介し合いながら、自分たちの将来やあるべき社会像についての議論する交流会が開催されている。ESDの重要さに気づいた高校教員の有志による組織「高等学校ESD愛知コンソーシアム」の主催によるものである。13年は高校生自らが企画・運営を担い、100人を超える高校生が集結した。14年は世界会議が開催される11月に2日間開催する。

大学生を対象とした事業については、愛知県内の大学により設立されている愛知学長懇話会が、県内7大学を会場に「ESD大学生リレー・シンポジウム」を開催している。他にも県内外の大学から学生が集まり、「〝環境の世紀〟にふさわしい未来を考えよう」と設立した学生団体「We Chubu」や、「わかものから愛知―名古屋を盛り上げる」をコンセプトに高校生・大学生で運営をする任意学生組織「名古屋わかもの会議」など、次世代の新しいESDアクションが誕生している。

この地域には、ESD推進のエンジンとなる組織がいくつかある。その一つ、なごや環境大学は05年開学した、市民、事業者、教育機関、行政、NPOなどの協働による学び合いの仕組みである。年間600コマの講座・活動が行われ、延べ2万人以上の参加者を得ている。

また、中部ESD拠点（国連大学のRCE認定拠点）は、教育機関、NPO、行政機関、企業など約80団体が加盟し、伊勢三河湾流域圏を対象エリアに、地域の持続性を妨げる自然・経済・社会の課題を明確にし、その解決に取り組む人材を育成するためのネットワークづくりを行っている。14年度はESD推進のための「中部モデル」の構築に注力し、世界に発信をしていく予定である。

この他にも、この地域では多岐にわたりESD実践がされており、世界会議を追い風に育まれた「ESDポテンシャル」がある。ESD10年の成果である。この成果をいかに積み重ね、どう継続させていくかが、今後の重要課題となっている。

先般、当オフィスでは紹介した取り組みを実施した団体などを交えて、この10年間を振り返り、今後どう取り組むかについて議論の場を設けた。行政、事業者、NPO、市民・若者など約140人が集まり、四つの分科会、対談、円卓会議を行い、いくつもの論点で意見を交わした。

上 自治体職員のためのESDハンドブック
下 自治体研修でのESDセミナー

ESDとは

Education for Sustainable Development（持続可能な開発のための教育）の略称。世界の人々や将来世代、また環境との関係性の中で生きていることを認識し、持続可能な社会の実現を目指す教育。2002年に南アフリカのヨハネスブルグサミットにおいて日本が「ESDの10年」を提唱し、採択された。ESDの10年とされる05年から14年までの10年間の各国の取り組みの成果などを14年11月に開催するESDユネスコ世界会議で取りまとめる。

上 小学校教員のESD授業紹介と授業づくり会議
下 高校生による取り組みの紹介

「中部モデル」世界に発信

今後必要なのは、この培ったポテンシャル、個別の取り組みを横断的・包括的に捉えて地域全体でESDを実践する仕組みづくりや、実践した内容を評価する機能、事業全体をマネジメントおよびプロデュースする機能を備えた組織であろう。今後展開されるであろうESDの取り組みが、いかに地域社会の変革、持続可能性の実現につながっているかを検証・改善し、総合的な施策をリードするためのアドバイザリー機関である。ナショナルレベルにも、基礎自治体レベルにも必要であり、専門性を持つスタッフの育成と配置も要する。

人類70億人の「挑み」真のグローバル人材へ

このような組織を地域でどうつくり、どう活用し、ESDの取り組みを成熟させていくかが、我々に求められている。

ESDを筆者の言葉で言うと、「今、未来を生きる人々の『生きる権利』が保証される、経済・社会づくりのための学び合い」である。これは約70億人存在する現世代の「挑み」である。我々は「世代間公正」「世代内公正」「地球資源の有限性」を全ての施策、事業の理念に据え、持続可能な経済・社会づくりに挑むしかない。この「挑む人」こそ、真のグローバル人材である。その育成のために、世界会議で示されるグローバルアクションプログラムを実行し、今の日本の教育体系にESDの視点と手法を浸透させ、日本型の「協働によるESD推進スキーム」を成熟させていくことが、15年以降我々に課せられている。

2014年はESDイヤーです！
ESDとは 持続可能な社会を支える担い手づくりの取組です。
環境 社会 経済
締め切り迫る！
「ESDユネスコ世界会議」併催イベントの出展者等の公募について
ESDユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会では、本年11月に愛知・名古屋で開催される「持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議」の開発にあわせて実施する予定の併催イベントの出展者等を文部科学省と共同して、下記のとおり公募いたします。

会場	場所	形態	期間	件数	担当
名古屋・栄地区	①久屋大通公園（もちの木広場、久屋広場）	ブース出展（間口3.6m×奥行1.8～2.7m程度）	11／8（土）、9（日）	60～120	支援実行委員会
		ステージ発表（1ステージ15～20分程度）		15～30	支援実行委員会
名古屋国際会議場	②1号館3階 会議室131-132、133-134、135	セミナー50名～100名収容（2時間程度）	11／10（月）～12（水） ※公募対象：全国の団体	16	文部科学省
	③1号館3階 ロビー	パネル展示（90cm×180cm）	11／10（月）～12（水）	20	文部科学省
	④1号館4階 レセプションホール	セミナー100名～150名収容（2時間程度）	11／11（火）、12（水） ※公募対象：愛知県を中心に活動する団体	10	支援実行委員会
	⑤センチュリーホール	セミナー（1,900名収容）（2時間程度）	11／11（火）	3	文部科学省
	⑥西側駐車場	ブース出展（間口3.6m×奥行1.8～2.7m程度）	11／10（月）～12（水）	20～40	支援実行委員会
レセプション会場	⑦名古屋市内ホテル	パネル展示（90cm×180cm）	11／9（日）18:00～21:00	50	文部科学省

★申請方法 文部科学省担当分、支援実行委員会担当分ともに、文部科学省ホームページ、ESDポータルサイト上で申請してください。
公募期間 7/1（火）～7/31（木）
http://www.esd-jpnatcom.jp/index.thml
※ESDとは、Education for Sustainable Developmentの略で、直訳すると「持続可能な開発のための教育」です。
愛知・名古屋でESDユネスコ世界会議開催
2014年11月10日～12日 閣僚級会合、全体会合等
2014年11月13日 フォローアップ会合
会場 名古屋国際会議場
ESDユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会
〒460-0001 愛知県名古屋市中区三の丸三丁目2番1号（愛知県東大手庁舎）
TEL.052-951-5350 FAX.052-951-5355
詳しくはHPをご覧ください
http://www.esd-aichi-nagoya.jp/

埼玉県認定!!
【くぬぎの森】フィールドで五感を使った自然体験!!

■くぬぎの森 環境塾
昔から人と自然との調和によって守られた豊かな環境を持続する活動の紹介や、五感を使った「くぬぎの森の散歩コース」を体験することで、生物多様性（生物と環境との関わり）と、奥深い自然環境を学べるプログラムを提供しています。
・お問合せは
Tel.049-259-6565 Fax.049-259-7663
Mail.info@kankyo-school.com

2014掃除大賞「大賞」「文部科学大臣賞」受賞
「おもてなし企業・全国50選」選出企業
【資源循環100%】を目指す - 全天候型独立総合リサイクルプラント -
国際ISO 6 統合マネジメント 14001 9001 18001 27001 50001 22301
産業廃棄物処理のトップリーダー
石坂産業株式会社
〒354-0045 埼玉県入間郡三芳町上富緑 1589-2
Tel. 049-259-1177 Fax. 049-259-0687
Mail. info@ishizaka-group.co.jp
持続発展に向けた教育、社会貢献に取組んでいます　インターネットで検索 石坂産業 検索